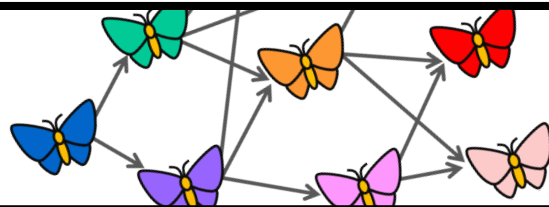


適応放散

における雑種形成と生殖隔離様式の役割：
どのような系統が多様化するのか？

香川幸太郎 氏

東邦大学 理学研究科 生物学専攻



適応放散は、単一の系統内で多様な生態学的ニッチに適応した複数の種が急速に進化する現象です。適応放散した系統では、なぜこのような進化が可能となったのでしょうか？先行の実証研究によって、種間での雑種形成が多様な形質を持つ個体を生み出し、様々なニッチへと適応するメカニズムとなった可能性が指摘されています。しかし、このような雑種形成が起きるためには、種間での交配隔離が「ゆるい」必要があると考えられます。例えば、交配相手に対するえり好み種間での交配隔離を成立させている場合、身体的には交雑が可能なので、雑種形成の可能性はゼロではありません。一方、例えば種分化時に体サイズが変化し、種間の交配が身体的に不可能となった場合などでは、雑種形成は不可能です。そこで私は、系統がもつ交配隔離の成立様式が雑種形成可能性に影響し、適応放散を決定づけるという仮説を立て、これをコンピューターシミュレーションによって検証しました。様々な交配隔離様式をもつ系統でシミュレーションを行った結果、ゆるい交配隔離が進化しやすい系統で、大規模な適応放散が起きやすいことが分かりました。この結果は、適応放散過程における雑種形成の重要性を示すとともに、交配隔離の成立様式が適応放散可能性を決定する要因になりうることを示唆します。

7/18
FRI

時間

16:30–18:00

場所

東北大学 青葉山キャンパス
生物地学共通講義室

連絡先

高橋佑磨 (生命科学・河田研)
takahashi.yum@gmail.com